

J R西日本あんしん社会財団
平成 21 年度 事業概要
(平成 21 年 4 月 1 日から平成 22 年 3 月 31 日まで)

当財団は、福知山線において重大な事故を巻き起こしたことの反省の上に立ち、「安全で安心できる社会づくり」の一端を担いたいとの思いから、西日本旅客鉄道(株)が全額寄付拠出を行い、平成 21 年 4 月 1 日に一般財団法人として設立された。

当財団は、平成 21 年 7 月 3 日に公益認定申請を行い、平成 22 年 1 月 6 日、内閣総理大臣より公益認定を受け、公益財団法人となった。

本事業概要は、一般財団法人としての事業年度である平成 21 年 4 月 1 日から平成 22 年 1 月 5 日までの期間、及び公益財団法人としての事業年度である平成 22 年 1 月 6 日から平成 22 年 3 月 31 日までの期間を合わせたものとしている。

I 事業概要

平成 21 年度事業計画に基づき、聖トマス大学「日本グリーフケア研究所」公開講座及び人材養成講座、鉄道基盤設備の安全性向上に関する研究を行う京都大学「社会基盤安全工学講座」、あしなが育英会、関西いのちの電話及び神戸いのちの電話への寄付助成を行った。

また、大規模な事故、災害が起こった際の備えやその後のケア、公共交通機関における事故防止といった視点から「安全で安心できる社会づくり」に寄与しうる活動や研究を対象として公募により助成を行うとともに、事故、災害時における市民による初期対応、初期救護の重要性を啓発するセミナーへの支援助成を行い、さらに、安全社会の構築に向けた普及啓発活動を行った。

1 心身のケアに関わる事業（聖トマス大学「日本グリーフケア研究所」への助成）

(1) 公開講座『「悲嘆』について学ぶ』への助成

事故や事件、災害、病気等により愛する人をなくした方の悲しみ、苦しみを共感し、ともに歩むため、平成 19 年 10 月に西日本旅客鉄道(株)により開設された公開講座『「悲嘆』について学ぶ』に対し、今年度より当財団から寄付助成を行った。

平成 21 年度の同研究所の公開講座は、第 4 期（平成 21 年 4 月～7 月：全 14 回）と第 5 期（平成 21 年 10 月～平成 22 年 2 月：全 15 回）が開講され、様々な分野の講師により多様な視点から悲嘆やグリーフケアの普及啓発を行うだけでなく、実際に悲嘆に陥られている方々にとって貴重な癒しの場となった。

(2) 人材養成講座への助成

聖トマス大学が、国内唯一のスピリチュアルケアを基礎に置くグリーフケアを学べる講座として平成 21 年度に開設した人材養成講座に対し寄付助成を行った。

平成 21 年度の人材養成講座では、受講生が基礎知識を習得し、より実践的な対人援助スキルを身につけることを目指す「グリーフケア基礎コース（第 1 期）」が開講され、43 名が受講した。

2 地域社会の安全構築に関わる事業

(1) 活動助成

事故、災害時における一般市民による迅速な救助や応急手当（ファーストエイド）の重要性を普及啓発し、市民の安全意識の向上を図ることを目的とする、尼崎市防火協会主催の「災害対策・救命セミナー」に対し支援助成を行った。

平成 22 年 1 月 20 日に尼崎市市内において開催されたセミナーには、市民や尼崎市内の事業所の方々など約 300 名が参加した。

(2) 研究助成

平成 20 年 4 月に西日本旅客鉄道(株)の寄付により開設された、社会基盤設備の安全性向上に関わる研究を行う京都大学「社会基盤安全工学講座」に対し平成 22 年度分の寄付助成を行った。

- 〈研究テーマ〉 ・ モニタリングによるリスク評価と新しい安全性評価指標の構築
・ 実務に適合した合理的な設計手法、維持管理手法の構築に関する研究

(3) 普及啓発活動

市民生活を支える公共交通機関である鉄道を素材として、地域社会における安全構築の重要性を普及啓発することを目的とする「安全セミナー」を当財団の主催により開催した。

〈実施概要〉

- テーマ 安全社会の構築に向けて
- 日 時 平成 22 年 3 月 5 日 (金) 13 時～16 時
- 会 場 ホテル「ホップイン」アミダ
- 内 容 ①主催者挨拶 (佐々木隆之 当財団理事長)
②講演
 - ・ 「安全・安心な交通運輸をめざして」 (安部誠治 関西大学商学部教授)
 - ・ 「鉄道インフラの安全技術」 (小山幸則 京都大学大学院工学研究科教授)
 - ・ 「ヒューマンエラーを少しでも減らすために」
(白取健治 西日本旅客鉄道(株)常務執行役員・安全研究所長)
- 参加者 一般市民や行政関係者、運輸事業者の方々など約 350 名

3 「安全で安心できる社会」の実現に関わる事業

(1) あしなが育英会への助成

あしなが育英会「神戸レインボーハウス」が事故や災害、病気等で親をなくした子どもたちへのこころのケア活動の一環として実施する宿泊研修会やキャンプに対し、その開催に必要な経費について助成を行った。

平成 21 年度は、関西地区「高校奨学生をつどい」(平成 21 年 8 月 17 日から平成 21 年 8 月 22 日まで)と神戸レインボーハウスに通う小・中学生を対象とした「キャンプのつどい」(平成 21 年 8 月 19 日から平成 21 年 8 月 22 日まで)が開催され、計 356 名が参加した。

(2) 関西いのちの電話及び神戸いのちの電話への助成

関西いのちの電話については、電話相談員の対応スキル向上を目的とした教育・研修事業に、神戸いのちの電話については、電話相談員のメンタルヘルスケア及び対応スキル向上のための研修事業に対し、それぞれ当財団から寄付助成を行った。

4 公募助成事業

財団設立後初めての公募助成であることから、助成対象テーマ等に関し、当財団の目的や設立趣旨をふまえ慎重に検討を行った結果、平成 21 年度は、①心身のケア及び②地域社会の安全構築に関わる活動・研究、③命の大切さを啓発する活動等、地域社会の安全構築及び事故、災害が起こった際の備えやその後のケアといった視点から「安全で安心できる社会づくり」に寄与しうる活動や研究に対し、公募により助成を行うこととした。なお、当財団の設立経緯等に鑑み、特に公共交通機関における事故又は自然災害に関わるものを重点対象とした。

(1) 公募の実施

21 年度は、平成 21 年 11 月 9 日から平成 21 年 12 月 18 日までの期間で募集を実施した。初めての募集で財団自体の認知度も低いこともあり、募集にあたっては、プレス発表、当財団ホームページへの募集要項の掲載、近畿地区 J R 主要駅へのポスター・パンフレット

の掲出や大学等研究機関、自治体、NPO支援団体へのこまめな周知など、できる限り多くの応募をいただけるよう積極的に広報活動を行った。その結果、周知期間及び募集期間が限られていたにもかかわらず、活動助成と研究助成合わせて113件の応募が寄せられた。

(2) 選考方法

応募案件について、事業審査評価委員会において、本公募助成の趣旨に合致することを最も基本的かつ重要な判断基準として、重点対象とした「公共交通機関における事故又は自然災害」との関連性や社会的必要性、計画性、経費の合理性のほか、助成先の分野のバランス等にも十分配慮しながら厳正なる審査・選考を行い、平成22年2月25日開催の理事会において助成先等を決定した。

	応募件数	助成件数	助成金額
活動助成	64件	17件	1,343万円
研究助成	49件	8件	1,412万円
合計	113件	25件	2,755万円

これを受け、平成22年3月29日、「2009年度 公募助成贈呈式」を開催し、活動助成と研究助成の対象団体や研究者の方々に理事長より贈呈書をお渡しした。

II 財団運営に関わる事項

1 公益認定申請及び公益認定

当財団は、その活動を通じて「安全で安心できる社会」の実現に寄与するという社会的使命を全うしていくため、財団設立前より公益認定申請に向けた準備を進め、財団内における必要な機関決定を受け、平成21年7月3日に公益認定申請を行った。

その後、内閣府公益認定等委員会での審議を経て、平成22年1月6日、「公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律」第4条に基づき内閣総理大臣より公益認定を受け、公益財団法人となった。

これに伴い、変更登記の他、税務、雇用関連の各種届出等の手続きを行った。

2 機関運営（評議員会、理事会、事業審査評価委員会の開催）

(1) 評議員会

期中に計2回開催し、評議員会長の選定、評議員会運営規則及び役員等の報酬に関する規程の制定、公益認定申請及びそれに伴う定款の一部変更の承認などを行った。

(2) 理事会

設立後最初の理事会（平成21年4月3日、平成21年度第1回理事会）において、重要規程類の制定、業務執行理事・常務理事、顧問、重要な使用人の選任・選定、聖トマス大学、あしなが育英会、関西いのちの電話、神戸いのちの電話、京都大学への助成及び基本財産の運用基本方針について承認した。

この他に期中で6回の理事会を開催し、事業審査評価委員会の設置及び同委員会規約の制定並びに事業審査評価委員の選任、公益認定申請に伴う事業計画等の変更、尼崎市防火協会主催の「災害対策・救命セミナー」に対する助成、公益財団法人となったことに伴う平成21年度事業計画及び収支予算、平成21年度募集公募助成先、平成22年度事業計画及び収支予算、平成22年度助成先等について承認した。

(3) 事業審査評価委員会

平成21年度第3回理事会（平成21年7月2日）において、支援助成事業にかかわる審査やその実績等の確認・評価のほか、年次事業計画の策定にあたって助言等を行う事業審査評価委員会の設置が承認され、その後の理事会で事業審査評価委員が選任された。

期中に計6回の委員会を開催し、事業審査評価委員会委員長の選定、公募助成の内容・方法及び支援助成事業の審査方法の審議、平成22年度上智大学「グリーンケア研究所」及び尼崎市防火協会の「災害対策・救命セミナー」に対する助成審査、平成21年度募集公募助成先の審査、平成22年度事業計画及び収支予算の検討、平成22年度あしなが育英会、関西いのちの電話及び神戸いのちの電話への助成審査等を行った。

3 その他

(1) 諸規程の整備

平成21年度第1回理事会及び平成21年度第1回評議員会等において、財団運営の基本となる重要規程類の制定を行った。

(2) 基本財産の運用

平成21年度第1回理事会決議を受け、基本財産10億円を西日本旅客鉄道(株)無担保社債(20年物)で運用を行った。

(3) 広報活動および情報公開

当財団のホームページを開設し、定款や財団役員、財務資料等の基本情報の開示や財団事業の紹介を行ったほか、財団事業を行うに際してプレス発表、JR主要駅へのポスター・パンフレット掲出等を積極的に行うとともに、財団の活動内容を紹介した冊子「JR西日本財団NEWS」を作成・配布するなど、財団及び財団事業の認知度向上のための広報活動に努めた。